

あるある

—身近なエピソードから学ぶ—

あおもり親楽プログラム

手引き
(展開例)

ここでは、プログラムを展開する際の一例を掲載しています。参加者の関心や実態に合わせて柔軟にアレンジすることで、プログラムが一層効果的になります。

プログラム
1

ダメったらだめ！ ～子どもの自我の芽生え～

ね ら い

2歳児の発達や行動の特徴を理解し、子どもとの関わり方を考える。

プログラム説明

2歳頃になると、なんでも自分でしたがるようになり、「イヤ、イヤ」と反抗的な態度をとるようになります。親は、「ダメ、ダメ」と怒ってばかりで、子どもの対応に困ってしまうことも少なくありません。そこで、こうした行動は子どもの自主性が育っている証であることを確認し、親が子どものイヤイヤと仲良くつきあう方法について考えます。

主な対象・時間

対象／乳幼児を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「子どもの自主性」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、最近子どもがやりたがること等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P 6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度） ・子どもの自主性が育っていることを共有する。
20分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②(1)ユウト君とお母さんの気持ち、(2)お母さんの対応を記入する。 ③(1)についてグループで話し合う。 ④(2)について理由をつけてグループで話し合う。 ⑤グループの意見を発表する。 ⑥2歳児の発達の特徴を確認する。（資料 P36） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。 ・子どもと親の気持ちの違いに気づく。 ・親の対処の仕方によって、子どもの気持ちや行動がどのように変わるか考える。 ・子どもの成長につながる関わりを考える。 ・資料を読み、説明する。 ・子どもの気持ちに共感する、子どもの自立を支援することを関わり方の観点として整理する。
20分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各々が「困っている事例」を1つあげ、今後の対応について、グループで意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの事例に対して、対応のよいところや工夫できそうなところを出し合い、今後の対応の具体的なアイデアを出し合う。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。 ・子どもの気持ちを受け止め、成長を支援する意欲、対応の改善など、前向きな意見を励ます。 ・学習後もつながりを大切にしていけるよう声をかける。

プログラム
2

笑顔のママでいたいのに！ ～子育てのイライラとつきあう～

ね ら い

子育ての悩みやイライラを共有し、その対処方法を考える。
周囲の協力を得ながら子育てしようとする意欲を持つ。

プログラム説明

子育てに悩みやイライラはつきものです。しかし、子育ての悩みやイライラを一人で抱え込んでしまう親も少なくありません。そこで、子育てのイライラは誰もが持っている感情であることを共有し、子育てを楽しむために、自分の時間を持つことや周囲の協力を得ることなど様々な視点から子育てのイライラとうまくつきあう方法を考えます。

主な対象・時間

対象／乳幼児～小学生を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	○学習のねらい「子育ての悩み」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、今日の自分を表す色等）	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	ワーク1 ①エピソードを読む。 ②(1)ショウ君とユイちゃん、お父さんの行動、(2)お母さんの対応を記入する。 ③(1)についてグループで話し合う。 ④(2)について理由をつけてグループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。 ・イライラが子ども等に伝わることを想像する。 ・考え方や感情のコントロール、お父さんとの関わりによって、対応が変わることを想像する。
30分	ワーク2 ①子育てでイライラした経験をグループで話し合う。 ②子育てのイライラとうまくつきあう方法についてグループで話し合う。 ③グループの意見を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てのイライラは誰もが持っている感情であることを共有する。 ・自分自身のことのほか、配偶者の協力、家族や身近な人への相談、支援施設・機関等の利用など、様々な視点からの対処法を出し合う。
10分	ふりかえり ○気づいたことを記入し、発表し合う。 ※地域支援に関する視点がないときは、進行役が資料等を示す。（資料 P37）	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。 ・子育てを楽しむ意欲や対処法を実践するなど、前向きな意見を励ます。 ・学習後もつながりを大切にしていけるよう声をかける。

プログラム
3

子ども同士のトラブル、SOS ～ルールを教える～

ね ら い

日常生活の中で起こる子ども同士のトラブルに、親がどう関わるかを考える。

プログラム説明

3歳頃から、子どもは友達と一緒に遊びたがるようになり、物の取り合いからけんかになるなど、子ども同士のトラブルが増えてきます。また、小学校低学年になると、大人の発言や声がけを基に、善悪についての理解と判断ができるようになります。そこで、子ども同士のトラブルの経験は社会生活のルールを身につけるチャンスであることを知り、親の関わり方について考えます。

主な対象・時間

対象／幼児～小学生を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「社会生活のルール」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、最近子どもを叱ったこと等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度） ・様々なルールを教えるために叱る場合があることを共有する。
30分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②(1)ケンジ君、ショウタ君、ショウタ君のお母さんの気持ち、(2)2人の子どものお父さん、お母さんの対応を記入する。 ③(1)についてグループで話し合う。 ④(2)について理由をつけてグループで話し合う。 ⑤グループの意見を発表する。 ⑥3歳以上の幼児、小学校低学年の児童の発達や行動の特徴を説明する。（資料 P38） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。 ・子どもと親の気持ちの違いに気づく。 ・親の気持ちをしっかり伝えることや親同士の関わりによって、子どもの気持ちや行動がどのように変わるか考える。 ・子どもの成長につながる関わりを考える。 ・3歳以上の幼児、小学校低学年の児童の発達や行動の特徴を確認する。 ・社会生活ルールを教えるときの叱り方のヒントにする。
10分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども同士のトラブルなど、社会生活のルールを身につける場面で、これからどうしていきたいか、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親としての関わりだけでなく、大人としての関わりについても考える。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。

プログラム
4

ケンタ君のあくび ～子どもの生活リズム～

ね ら い

子どもの成長のためには、生活リズムを整えることが大切であることを知り、それぞれの家庭でできることを考える。

プログラム説明

生活リズムといえば、「早寝早起き朝ごはん」が思い浮かびます。しかし、言葉は知っていても、「子どもはなかなか寝てくれない」、「睡眠時間が確保されているからいい」と思っている親もいます。そこで、なぜ、子どもにとって生活リズムを整えることが大切なのかを知り、それぞれの家庭でできる実践を考えます。

主な対象・時間

対象／幼児～小学生を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「生活リズム」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、最近うれしかったこと等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②(1)お子さんの様子、(2)ケンタ君のお父さんたちの対応を記入する。 ③(1)について理由をつけてグループで話し合う。 ④(2)について理由をつけてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながらか読む。 ・子どもの生活習慣とその原因を振り返り、今後の改善点に気づく。 ・親自身の行動や生活の仕方が子どもの生活習慣を乱す原因になっていることに気づく。
10分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの成長と生活リズムについて説明する。（資料 P39～40） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが成長するためには、「早寝早起き朝ごはん」等生活リズムを整えることが大切である。
20分	<p>ワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○早寝早起き朝ごはんの習慣をつける工夫についてグループで話し合う。 ※各々の課題（ワーク1③）について、対応を意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題に対して、対応のよいところや工夫できそうなところを出し合い、今後の対応の具体的なアイデアを出し合う。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践できる目標を1つ記入する。 ○気づいたことを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な家庭環境があることから、多様な実践を認めるよう配慮する。

プログラム
5

わが子も大きくなりました！ ～子育て年表を作ろう～

ね ら い

これまでの子育てを振り返り、親のあり方を見直すきっかけとする。

プログラム説明

子育て中は日々の生活に追われ、子どもとの関わりや子育てを通じた自分の成長に気づきにくいものです。そこで、これまでの子育てを振り返り、親も子ども共に成長してきたことを実感し、今後の子育てへの意欲を高めます。

主な対象・時間

対象／幼児～小学生を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「子育てを振り返る」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、最近ハマっていること等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
20分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ワークシート（P42）の書き方を説明する。 ②これまでの子育ての出来事（自分にとっての）をワークシートに記入する。 ③②について、そのときの気持ちや対応をグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを拡大して書き方を説明する。 ・自分にとっての出来事でよいことを説明する。 ・これまでの子育てを振り返り、親も子どもと共に成長してきたことを実感する。
20分	<p>ワーク2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今後10年間の子育ての出来事をワークシートに記入する。 ②どんな親になりたいかを記入する。 ③①、②について、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの子どもの成長を想像し、親としての関わり方に見通しを持つ。 ・10年後に子育てを終えている場合は、子育て後の生き方について考える。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 ○あおもり家庭教育10か条（資料 P41）を紹介する。 ※わが家の1か条を何例か紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親（家庭）として大事にしたいことはそれぞれ違うが、子どもの成長を支援していくことが大切であることを確認する。 ・わが家の1か条を家庭で話し合うよう声をかける。

※時間がある場合は、ワーク2の後にわが家の1か条を作成してもよい。

○ここでは小学校1年生での実施を想定していますが、保育園等卒園、2分の1成人式、小学校卒業等、子どもの成長の節目で子育てを振り返るなど、幼児または小学校中・高学年での実施も効果的です。

○P42の資料「わたしの子育て年表」を事前に印刷・配付して、研修会参加者にあらかじめ準備をもらうと、展開が一層スムーズに進みます。

プログラム
6

家族の一員としての役割を持たせよう
～自立を願うなら、自分のことは自分で～

ね ら い

子どもの成長のためには、家庭での役割を分担させることが大切であることを知り、親の関わり方について考える。

プログラム説明

お手伝いは子どもの生活能力を高め、責任感や自信を育みます。小さい頃から習慣づけて子どもの成長を見守りたいものです。しかし、最近は、子どものお手伝いがなかったり、継続した役割がなかったりする家庭があります。そこで、子どもの成長にとって「家庭での役割を持たせること」が必要であることを知り、そのための親の関わり方について考えます。

主な対象・時間

対象／幼児～小学生を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「家庭での役割」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、得意なこと等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人のグループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②ハルト君が片づけられない理由を記入する。 ③②についてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。 ・子どもの発達、片づけの環境、親の過保護・過干渉など、できない原因に気づく。
20分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ①あなたならどのように対応するか記入する。 ②①についてグループで話し合う。 ③グループの意見を発表する。 ④家庭での役割と子どもの成長について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できない原因を解決するための親の関わりに気づく。 ・子どもの成長につながることを整理する。
10分	<p>ワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各々の家庭の様子と工夫したいことを、グループで意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの意見に対して、具体的なアイデアを出し合ったり、励まし合ったりする。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。 ・子どもの成長を支援する意欲、対応の改善など、前向きな意見を励ます。

プログラム
7

いい一日は、いい「おはよう」から！ ～家庭でのあいさつ～

ね ら い

家庭でのあいさつを振り返り、今後の家庭での実践を考えることができる。

プログラム説明

あいさつはコミュニケーションの第一歩。しつけの中でも、「あいさつのできる子に育てたい」と思う親は多いですが、なかなか身につかないとも感じています。そこで、家庭でのあいさつを振り返り、家族が気持ちのよいあいさつを交わすための工夫について考えます。

主な対象・時間

対象／幼児～小学生を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「家庭でのあいさつ」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、好きなもの3つ等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②マリさんの気持ちを記入する。 ③②についてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家の様子を思い浮かべながら読む。 ・あいさつをした気持ちと返ってこなかった時の気持ちを考える。 ・あいさつにはメッセージが込められていることを想像する。
20分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ①お父さんたちのあいさつを考える。 ②①について、グループであいさつを交わし、気づいたことを話し合う。 ③何組かに役割演技をしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつに込められたメッセージを受け止め、よりよいコミュニケーションをとるための工夫を考える。
10分	<p>ワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭で気持ちのよいあいさつを交わすために、工夫したいことをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつすると気持ちがいいな」が習慣化に結びつくことを想像する。 ・日頃のあいさつを振り返り、改善点に気づく。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での実践を励ます。

プログラム
8

わたしの話、聞いている？ ～親子の会話～

ね ら い

子どもとのコミュニケーションについて考える。

プログラム説明

会話はコミュニケーションの基本です。親子では、つい「家族だから言わなくても分かる」と思いがちですが、「話をよく聞く、思いを伝える」は、様々な人と関わるために大切な力です。そこで、「子どもの話を聞く、親の思いを伝える」ための方法を確認し、親子のコミュニケーションを考えます。

主な対象・時間

対象／小学生を持つ親 時間／60分

展 開 例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「家族の会話」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、今欲しいもの等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	<p>ワーク1</p> <p>①子どもとの会話で困った経験をグループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の会話がかうまくいかないことは誰にでもあることを共有する。
20分	<p>ワーク2</p> <p>①エピソードを読む。</p> <p>②(1)ミサトさんの気持ち、(2)お母さんの対応を記入する。</p> <p>③(1)についてグループで話し合う。</p> <p>④(2)についてグループで話し合う。</p> <p>⑤気持ちを伝える方法について紹介する。（資料 P43）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。 ・子どもと親の気持ちの違いに気づく。 ・母親の気持ちを伝える方法を工夫することで、子どもの行動や気持ちがどう変わるか想像する。
10分	<p>ワーク3</p> <p>○子どもと会話するとき大切にしたいことは何かをグループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の会話を振り返り、改善点に気づく。
10分	<p>ふりかえり</p> <p>○気づいたことを記入し、発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。 ・家庭での実践の意欲など、前向きな意見を励ます。

※時間がある場合は、ワーク2の後に、部屋に入ったミサトさんへの対応について話し合ってもよい。

プログラム
9

わが子がイキイキしてる！ ～体験活動のススメ～

ねらい

体験活動と子どもの心身の発達を理解し、親としてできることを考える。

プログラム説明

子どもたちは、様々な体験を通して、感動、忍耐、自然や命を大切にする心など、多くのことを学びます。しかし、最近では社会の変化に伴い、子どもの遊びは変化し、体験活動の機会も減少しています。そこで、子どもの心身の発達にとって体験活動が大切であることを確認し、こうした機会が得られるよう親としてできることを考えます。

主な対象・時間

対象／小学生を持つ親 時間／60分

展開例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「遊び・体験活動」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、小学校の思い出等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②お父さんの気持ちを記入する。 ③②についてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。 ・体験活動は子どもの心身の発達と関係あることに気づく。また、実施には親の関わりが必要なことに気づく。
20分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ①どんな体験をさせているか、その時の子どもの様子を、グループで話し合う。 ②体験活動と子どもの成長について説明する。（資料 P44～45） 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び、生活体験、自然体験、奉仕活動、地域活動など様々な体験があることに気づく。 ・子どもの成長につながることを整理する。
10分	<p>ワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験ができるよう今後していきたいことを、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でしていきたいことが出た場合は、地域みんなで子育てすることに目を向けさせる。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。

プログラム
10

わが子の小さな勇気 ～思いやりのある子に育てるには？～

ねらい

思いやりの心を育むための、親の関わりについて考える。

プログラム説明

人を思いやることは、豊かな人間関係を築く力を育むことにつながります。「思いやりのある子に育ててほしい」と願う親は多いですが、教えるとなるとなかなか難しいものです。そこで、子どもの思いやりが育っている場面を通して、これまでの親の関わりを見直し、今後の親の関わりについて考えます。

主な対象・時間

対象／小学生を持つ親 時間／60分

展開例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「思いやり」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、最近うれしかったこと等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場を和やかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②お父さんの気持ちをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。
15分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもに思いやりの心が育っていると思うのはどんなときか記入する。 ②①について理由をつけてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の日頃の関わりが子どもの思いやりを育むことにつながることに気づく。
15分	<p>ワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思いやりの心を育てるために、今後していきたいことを、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長とともに、どんなことを伝え、どんな手本を示していくのか考える。 ・家庭だけでなく、地域でできることを考える。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 ○あおり家庭教育10か条（資料 P41）を紹介する。 ※わが家の1か条を何例か紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。

プログラム
11

タブレット、どう使う？ ～ ICT 機器使用のルール～

ねらい

ICT 機器使用のルール作りについて、親としてできることを考える。

プログラム説明

現代の社会生活とは切り離すことができない ICT 機器。スマートフォンやタブレット等は便利なものである一方、子どもがゲームや SNS 等に没頭しすぎて、親が機器の扱わせ方に悩みを抱えることは珍しくありません。そこで、ICT 機器使用のルール作りについて、親としてできることを考えます。

主な対象・時間

対象／小学生を持つ親 時間／60分

展開例

時間	学習内容	展開のポイント
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらい「ICT 機器使用のルール」 ○学習の約束 ○アイスブレイク（資料 P47～48 参照） ○グループ分け ○自己紹介（名前、子どもの年齢・性別、最近はやっていること等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを分かりやすく伝える。 ・学習の約束（P6）を確かめる。 ・参加者の緊張をほぐし、場をやかにする。 ・予め4～6人グループを作っておく。 ・グループ内で自己紹介をする。（1人30秒程度）
10分	<p>ワーク1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エピソードを読む。 ②お父さん、お母さんの気持ちをグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も似たような経験がないか思い出しながら読む。
15分	<p>ワーク2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT 機器（家庭用ゲーム機も含む）に関する家庭でのルールについて、グループ内で発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器とうまく付き合うためには、親も子どもも納得したルールを作ることが大切であることに気づく。
15分	<p>ワーク3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ルールを守って ICT 機器を使用させるために、親としてできることについて考える。 ○家庭でのルール作りのポイント（資料 P46）を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の有益さも踏まえながら、家庭でのルールづくりのあり方を考える。
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気づいたことを記入し、発表し合う。 ○あおもり家庭教育 10 か条（資料 P41）を紹介する。 ※わが家の 1 か条を何例か紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何人かに発表してもらい共有する。

プログラムシート（プログラムのアレンジや計画に使えます）

プログラム名（講座名）	
ねらい	
主な対象・人数	
日時	
会場	
広報の計画 ※ポスター／チラシなど	

展 開

時間	学習内容	展開のポイント・留意点	進行役・準備物

